

算数科学習指導案

授業日 令和6年11月20日(水)

学習者 1年1組 30名

授業者 平岡 あゆみ

1 単元名 「ひきざん」








2 単元の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・11から18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。	・数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

4 単元計画と学習評価(全10時間)

時	学習内容	学習評価(知・思・主)〈方法〉
1	・13-9の計算の仕方を考える。	・既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にした13-9などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。(知)〈ノート〉
2	・操作や図を用いて、13-9の計算の仕方を説明する。  ①ゴールまでの道筋	・13-9などの計算の仕方を、数の見方「10といくつ」を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。(思)〈ノート・発言・交流〉 ・既習の加減計算の学習や数の見方を基に、13-9などの計算の仕方を考えようとしている。(主)〈ノート・観察〉
3	・減数が8か7の場合の計算の仕方を考える。  ①個別目標	・減加法による計算が確実にできる。(知)〈ノート〉 ・減数が9～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひいて計算すればよいことを考え、説明している。(思)〈ノート・発言・交流〉
4	・減数が9～5の場合の計算練習に取り組む。  ①個別目標	
5 (本時)	・12-3の計算の仕方を考える。  ①個別目標	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解し、その計算ができる。(知)〈ノート・発言〉
6	・16-7の計算の仕方を考える。 ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、自分が計算しやすい方法で、計算練習をする。  ①個別目標	・被減数、減数の大きさに関係なく、被減数の構成に着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。(思)〈ノート・発言・交流〉
7 8 9	・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。  ②成果の実感	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。(知)〈ノート・発言・交流〉 ・計算カードの並び方について、縦に見ると被減数が1増えると減数も1増える、という関係的な見方に気づき、数の関係を説明している。(思)〈ノート・発言・交流〉
10	・学習内容の定着を確かめるため、問題に取り組む。  ②成果の実感	・基本的な問題を解決することができる。(知)〈ノート〉 ・単元の学習を活用して問題の解決の仕方を考え、説明している。(思)〈ノート・発言・交流〉 ・単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。(主)〈観察〉

5 本時でめざす子どもの姿

○3をどこからひくかに着目して、12-3の計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。

(思)〈ノート・発言・交流〉

6 仮説との関連

- ① 一人一人が目標をもち、ゴールまでの道筋をつくったり、見通しをもたせたりするための工夫(仮説1)
 - ・前時の活動を振り返って確認することで、本時の課題を明確にし、見通しをもつことができるようにする。
 - ・既習の方法ならできそうか、新しい方法で考えるか、進んで自分で目標をもてるようにする。
- ② 「できた！わかった！成長した！」を実感するための手立て(仮説2)
 - ・計算の仕方を、自分がやりやすいブロック、図、タブレットから選択し、説明することで自分の学びを実感できるようにする。

7 本時の学習展開(5/10)

	児童の学習活動	評価□ 留意点※
導入 5分	○前時の活動を振り返る。 ○本時の課題を確認する。 (も) おかしが12こあります。 3こたべると、のこりはなんこですか。	※立式の根拠を問いかけ、問題の場面を正確に捉えられるようにする。
展開 33分	○本時の課題を把握する。 (か) 12-3のけいさんのしかたをかんがえよう。 ○自分の目標に丸をつける。 ○既習の方法や、新しい方法はないか見通しをもつ。 ○自分の考えをワークシートにかく。(個人) ○考えを説明し合う。(ペア) ○全体交流 考えを伝え合い、交流する。 ・ワークシート、ホワイトボードで友達の考えを比較する。 ・いいなと思ったことを発表する。 ・新しい計算の仕方はどれか話し合う。 ○10から3をひく。(今までの計算の仕方) ①2から3はひけない。 ②12を10と2にわける。 ③10から3をひいて7。 ④7と2で9。 ○3をわけてばらからひく。(新しい計算の仕方) ①2から3はひけない。 ②3を2と1にわける。 ③12から2をひいて10。 ④10から1ひいて9。	※既習の方法ならできそうか、新しい方法で考えるか、自分で目標をもてるようにする。 ※班ごとに、ケーキの模型を使って、どこから食べるか実際に動かしてみる。 ※3をどこから取ったのか考えさせる。 ※計算の仕方を説明する表現を、ブロック、図、式、説明から選択する。 ※自分の考えと友だちの考えと同じか違うか比較し、いいなと思うことを見つけてさせる。 □3をどこからひくかに着目して、計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。 (思)〈ワークシート・交流・発言〉
終末 7分	○学習のまとめをする。 (ま) 3をわけて、ばらからひくけいさんのしかたもある。 ○確認問題をする。 13-4 ○次時に適用問題に取り組むことを知る。 ○本時の振り返りをする。	※12-3の計算は、 ・10から3をひく。 ・はじめにばらの2をひく。 どちらの仕方でもよいことを確認する。 ※次時への意欲につなげる。 ※振り返りの視点を提示する。

